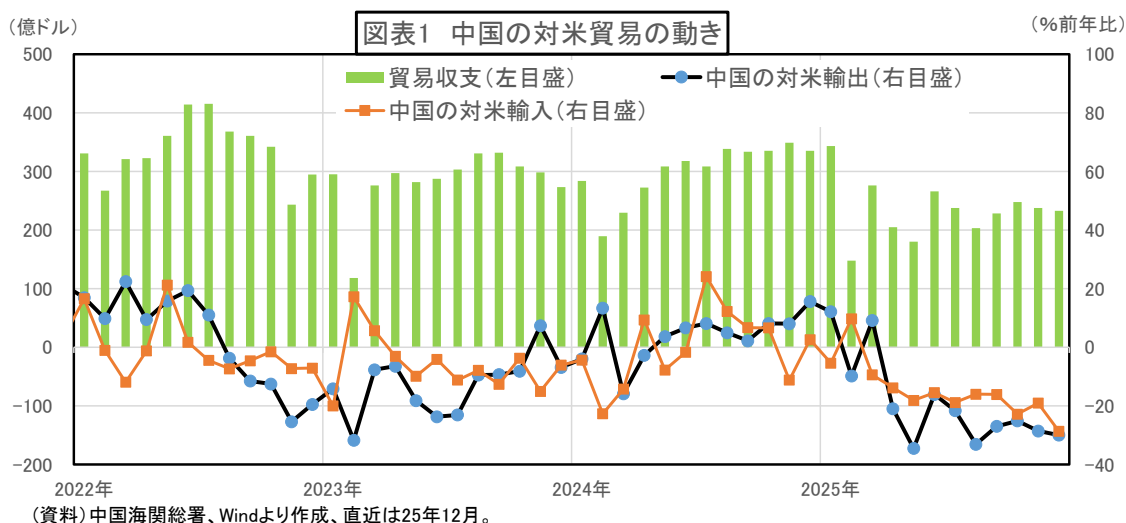
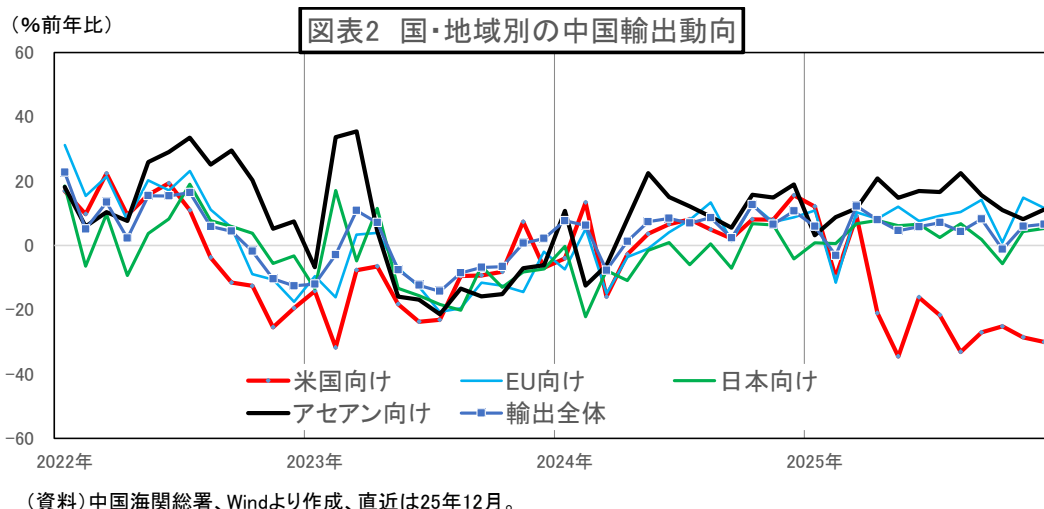


(中国)26年も輸出の堅調さを維持する見込み

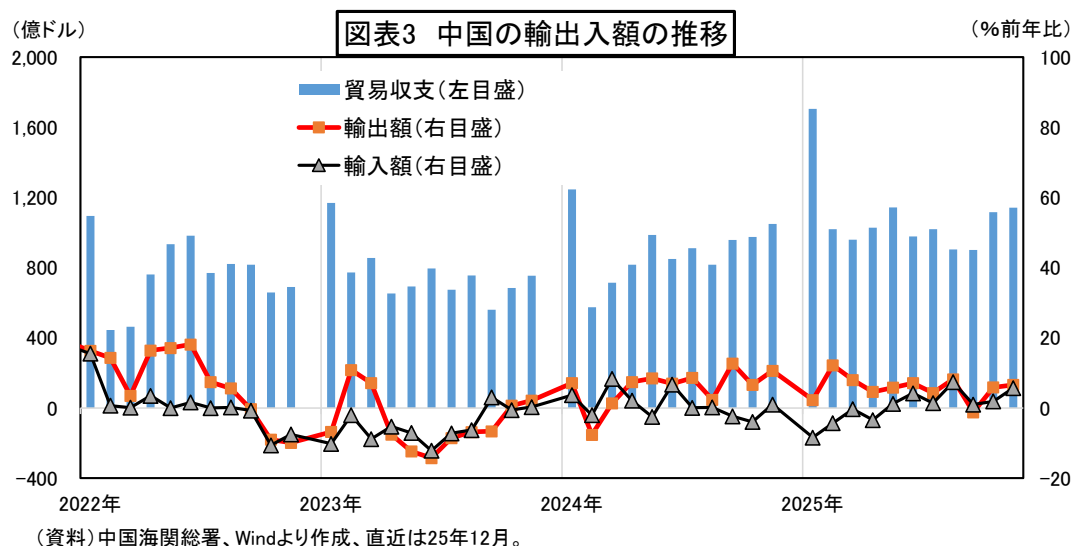
中国の対米輸出は、米中通商摩擦の「休戦」にもかかわらず、高関税の影響などから大幅な低迷が継続している。中国海関総署が1月14日に発表した貿易統計によると、25年12月の対米輸出(ドル建て速報値)は前年比▲30.0%、9か月連続の前年割れとなった(図表1)。また、対米輸入も同▲28.7%と減少が続いている。



一方で、米国以外の輸出は底堅さを維持している。ベトナムやマレーシアなどアセアン向けの輸出は同 11.1%と堅調に推移。さらに、EU 向け輸出は同 11.6%と大きく伸び、日本向け輸出も同 5.3%と2か月連続のプラスを維持した(図表2)。



その結果、12 月の輸出額は同 6.6%と、2 か月連続のプラスとなり、全体として底堅く推移した(図表 3)。世界的な AI 投資ブームや中国国内製造業の高度化を背景に、半導体、自動車、船舶の輸出が大幅に伸び、輸出全体を支えている。



一方、12 月の輸入額は同 5.7%と、11 月の同 1.9%から加速した(図表 3)。不動産不況の長期化や雇用・所得環境の厳しさを背景に内需は依然として弱いものの、持ち直しの兆しがみられる。輸出額から輸入額を差し引いた貿易黒字は 1,141 億ドル、25 年通年では 1 兆 1,189 億ドルとなった。

トランプ関税で大きく懸念された 25 年の輸出は前年比 5.5%と、24 年(同 5.8%)からやや鈍化したものの、底堅く推移した。26 年の輸出については、政府や業界による過度な値下げ競争の抑制を意味する「反内卷」政策のさらなる推進により、輸出価格の下落に一定の歯止めがかかる可能性がある。また、米中対立の緩和や米国経済の底堅さを踏まえると、対米輸出の減少幅縮小も期待される。他方、欧州向けは下振れリスクがある。これらを踏まえると、中国の輸出全体は引き続き底堅さを維持する可能性が高いと見込まれる。